

2011年8月7日 主日礼拝メッセージ

聖書箇所：ルカの福音書5章1～11節

説教題：私は、罪深い人間です

1 シモン

イスラエルには大きな湖がふたつあり、一つは死海あるいは塩の海とも呼ばれ、水の上に寝転びながら新聞が読めることで有名です。もう一つがゲネサレ湖。一般にはガリラヤ湖と呼ばれており、支笏湖よりもふたまわりほど大きな湖で、ここを舞台にして今日の箇所は展開していきます。

人々はイエスが語るみことばを聞こうと村々から集まり、押しかけてきました。イエスはシモン・ペテロの舟を借り、舟に乗り込み、陸から少し離れた所に舟を泊め、そこから人々に語ったとあります。でも、皆さんもやってみたらわかるはずです。例えば支笏湖に行ってボートに乗って少し岸から離れ、そこで何かをしゃべってみてください。陸にいる人はその声をきちんと聞き取ることができるのでしょうか。かなり難しい。声が通りません。いつもなら、イエスは人々と距離をとるようなことはなさいません。不思議に感じます。

ここでは、シモン・ペテロが大事な役割を演じています。数日前のことですが、シモンのしゅうとめはひどい熱のため、家で寝ておりました。シモンはイエスに自分の家に来てもらいたいとお願いしたようです。それでイエスは会堂を出た後、まっすぐにシモンの家に向かわれ、すぐにしゅうとめをいやされます。シモンはイエスが熱をしかりつけ、しゅうとめがいやされるのを間近で目撃しました。そればかりではありません。その夜、近隣の村々から大勢の人がイエスの所を尋ねてきて、病気や身体の障がいがいやされていきます。悪霊も追い出されていきました。シモンは、そばで一部始終を見ることのできる場所におりました。

そのシモン。イエスを信じましたか。いいえ、この時点ではまだ信じていません。そんなシモンが、ではどのようにしてイエスを信じるよう

になっていたのか。その事を次に見ていきます。

2 ゲネサレ湖で

(1) シモンの弱さを知りながら

群衆が押し迫るようにして押し寄せてきたのでイエスは危険を感じ、それで舟に乗り、陸から少し離れた場所に移動したように見えます。でもイエスは神です。行き当たりばったりで物事を決めるようなお方ではありません。最初からシモンの舟を借りることに決めていたはずでした。目的はただ一つ。シモンを召し出すため。なぜシモンだったのでしょうか。わかりません。少なくとも言えることは、シモンが優秀で能力があったということではなさそうです。性格を見ても決して完全な人とは言えません。後でイエスは彼にペテロというニックネームをつけます。岩という意味です。日本語に訳せば、「頑固者シモン」、「石頭シモン」。

皆さんもご存じのとおり、シモン・ペテロはイエスが逮捕され、裁判にかけられた時にイエスのすぐそばにいましたが、三度イエスを知らないと言いつつ張った人です。やがてペテロがそういう大失敗をやらかしてしまうことをイエスは知っています。ペテロのすべてをご存じの上でペテロの目を留め、ペテロを弟子として選び出していきます。

(2) 浅瀬から深みへ

さて、ふたりが乗っております舟の位置に注目していただきたい。最初舟はどこにあったか。2 節に「岸边」と書いています。シモンたちは舟から上がり網を洗っています。夜通し働きましたが、何一つ取れない。深い疲労感と落胆で心が沈んだ状態です。彼らは長年の経験からいつでも網を降ろせば魚がとれるか、知っていました。けれどもこの日は、ことごとく予想が裏切られ、散々な結果となってしまいました。漁師としてのプライドが痛く傷つけられました。気分がふさいでいます。イエスが岸边に立って群衆に何か語っていても、耳を傾ける気持ちなどありません。自分のことで精一杯なのです。

ですからイエスがシモンの所に来られ、舟を貸してもらいたいと言わ

れた時、気が進みません。できるなら家に帰って早く休みたい気分でした。けれども、しゅうとめをいやしてもらった義理もあったので、シモンはしぶしぶ舟を出します。

舟に乗り込んだイエスは陸から少し漕ぎ出すようにと頼みます。すぐに帰れる距離です。陸にいる人々の顔がよく見えます。イエスは陸に向けて語り始めます。

イエスの演説は終わりました。やれやれ、やっと陸に戻れるとペテロは思いました。しかしイエスは、ペテロが予想もしていなかったことを語りました。「深みに漕ぎだして、網をおろして魚をとりなさい。」冗談ではありません。こちらは夜通し一生懸命働いたのです。ここらあたりいったいくまなく魚を探し続けて、それでも一匹もとれなかった。素人のイエスに、思いつきで簡単に言って欲しくない。シモンは頭に血が上り、怒りを露わにします。それでも恩だけはありますから、ことばでは何とか丁寧さを装っています。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。」

聖書では、すぐに続けてシモンがイエスのことばに従ったかのように書かれています。でも実際はどうだったのでしょうか。怒りがおさまるまで、しばらく沈黙していたのではないのでしょうか。でも、イエスは最初からご存じです。シモンが不平を口にしても動じることはありません。おだやかに、シモンの次のことばを待っています。どれだけ沈黙の時間が流れても気にしません。イエスが気まずくなることはありません。イエスにとって、すべての時間は順調に流れていきます。

しばらくの沈黙の後、シモンは「おことばのとおりに」と言って、イエスのことばに従うことにします。もちろん、すべてを納得したわけではありません。頭の中ではもう結論が出ています。絶対に魚がとれるはずはない。しかし、シモンは深み漕ぎだしていくことにしました。

(3) 深みに触れてくださるイエス

先ほど、舟の位置に注意してくださいと言いました。最初は岸辺、次に陸から少し漕ぎだした所。そして今度は深みです。陸からかなり離れ

ていますから、もう岸辺にいる人たちの顔は見えません。湖の上にはイエスとシモンの二人しかいません。

でも、なぜ深みなのでしょうか。イエスはこう言っています。直訳します。「深みに漕ぎ出しなさい。そして網をおろしてつかまえなさい。」深みには魚がいるので、だから深みに漕ぎ出せと言った。確かにそうです。でも、この深みは、この後すぐにシモンにとって人生が大きく変えられる場所になります。魚がいっぱいいる「深み」という意味だけではありません。

湖の深みは、シモンにしてみれば手に取るくらい知り尽くしていた場所のはずでした。何しろ、この日は夜明け前から湖に出て、あちらこちらと舟を移動させ、深みに向けて何度も網をおろしていたのです。ですから、イエスに従って網をおろした所で、どうせダメに決まっていると信じて疑いません。ところが意外なことに、舟がひっくり返りそうになるくらいの魚が網で引き上げられました。

「深みに漕ぎ出しなさい。」イエスはこう言われました。言っているのは、湖の深みのことだけなのでしょうか。シモンの身に起きたことを見れば、何か別のことも指して言っているような気がするのです。

実際に網をおろしたのはシモン。おろした場所は、湖の深み。しかしこう言い換えることができます。

シモンがイエスを乗せて深みに漕ぎだしたのはなく、イエスが、シモン深い所に向かっていかれた。その深みの所に来た時、シモンが網をおろしたのではなく、イエスが網をおろされ、上に引き上げてくださった。シモンの深みには何があったのか。その網を上げてみるとまさか予想もしなかったような大漁でした。

シモンはそれを見てこう告白しました。「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」

つい先ほどまでイエスに対してほとんど関心を払うことはありませんでした。ところがどうでしょう。シモンはイエスに対してあまりにも近づきすぎてしまったと、あわてています。自分があまりにも罪深いからと言うのです。どうしてシモンは、突然のように自分の罪深さに気がつき、

そのことをイエスに申し上げなければならぬと考えたのでしょう。驚くべき奇蹟を見たから、と聖書に説明されています。

漁師としての経験から、こんなことは絶対にあり得ない。これは人間わざではない。そう直感しました。イエスはシモンの深い所に触れたのです。その瞬間、シモンは自分がいかに罪深い者であるかを語り、罪を告白します。シモンの深みから引き上げられたのは、罪という告白であったと言い換えることができます。

では、シモンは自分が抱えているすべての罪に気がつき、その事を告白したのか。いいえ。彼が気がついたのは、ほんのわずかの部分に過ぎません。やがて彼はイエスを見捨てて逃げていきます。まさかそんな罪深い自分だとはまだ気がついていません。でも、イエスにとってはそれで十分なのです。それでよしとさせていただきます。気がつかない罪についてはゆっくりと時間をかけて、イエスご自身が私たちに教えてくださるからです。

今、イエスは、シモンの深い所に網をおろされました。シモンの罪が網で引き上げられたと、言いました。引き上げられた網、ひどい悪臭を放っていましたか。いいえ、網を上げてみると、たくさんの魚で満ちていました。これはどういうことでしょうか。というのは、イエスが私たちとどこで関わろうとされているのか、この出来事から見えてくるのです。

イエスは何をするためにこの世に来られましたか。十字架に向かうためです。もしそれをしなかったなら、自分が遣わされてきた意味がないといつも考えていました。なぜ十字架でしょう。私たちの罪を贖うため。であれば、この方が私たちと関わりを持ってくださるのは、まさにこの罪という一点においてです。ほかにはありません。シモンの身に起きたことを見れば、まさにそのとおりだとわかります。

最後になりますが、イエスがシモンの罪のことをどうされたか確認します。イエスはシモンを責めたでしょうか。いいえ。そんなことはなさいません。見ておわかりのように、引き上げられた網はたくさんの魚でいっぱいでした。イエスは、私たちが告白する罪を、かえってこのように豊かに祝福に変えてくださる、喜んでくださる。そのことを示してい

ます。罪に触れられたシモンは気落ちしていました。どうしようもない罪深い人間だと涙を流していました。そんなシモンに対し、イエスはユーモアに満ちたことばをかけてくださり、励ましていかれました。

イエスはシモンにしたのと同じことを私たちにもしてくださいます。私たちの深みに触れてくださる主です。そしてまた、告白する罪を責めるではありません。むしろ暖かく迎え、喜んでくださり、大きな恵みに変えてくださる主なのです。